

学校便り

プラハ日本人学校

TEL : 233 340 000

FAX : 224 313 684

Email: gakko@jpschool.cz

No.889 2017/5/30

JAPONSKÁ ŠKOLA V PRAZE

VLTAVA

学校教育目標

「自ら学び共に学ぶ、豊かな心と国際性あふれる たくましい児童・生徒の育成」

目指す子ども像

かしこい子・やさしい子・たくましい子・世界で生きる子

協力するからこそ出せる全力、その力を出すことの大切さを学んだ

(5年武内健太朗)

1年・みずのくん「うんどうかいで、たまいれが、たのしかったです。まけたのが、くやしかったけど、みんなでたまいれできたから、うれしかったです。」

1年・かわはらくん「たまいれでいっぱいいれて一かいせんも二かいせんもかたづけきょうそうでもかってうれしかったです。ちからをあわせてぜんりよくをだせたのでなげるのがたのしかったです。」

1年・いわたくん「うんどうかいのかけっこがおもしろかったです。なぜかというとはくがはしっていてころんで3ばんになりそうだったけどすぐたって2ばんになれました。」

1年・おおばさん「わたしは、ふうちゃんといっしょに、おおだまころがしをしました。ふたりでじょうずにできました。たのしかったです。」

2年・芹澤さん「ぼうひきは、あいてもつよかったけど四年生のおねえさんがたすけてくれてよかったです。わたしも、そういうひとになりたいです。ロボットみたいなダンスは、一、二、三年生のみんなでなかよくダンスをできてうれしかったです。おなじ人とまたやりたいです。」

2年・水田さん「とくに一年生の玉入れがたのしかったです。ほんとうは、一年生がやるんですけどおたすけではいりました。ときょうそうではまっすぐはしって手をよくふるほうがはやくはしれるな、とおもいながらはしっていたら、二いになれました。れんしゅうのときは、三いだったのに手をよくふりながらはしってはやくなれてうれしかったです。」

3年・野村さん「朝、起きてから運動会がはじまるまで、ずっと『どんな運動会になるのかな。』『はやくはじまらないかな。』そんな思いでむねがいっぱいでした。開会式がはじまったしゅんかん、ドキッとしました。朝はワクワクだったのに、はじまると、ドキドキになっていました。一番いんしょうに残ったのは、中学生のダンスと4・5・6年生のダンスです。中学生のダンスは、力強いおどりで、目の前で見れて、4・5・6年生は、空手とたいこで、たいこのリズムに合わせて、強く弱くの調せいができていました。2番目にいんしょうにのこったのは、ふる☆プル★PULL!!!です。3年より上の人たちがアドバイスやおうえんをしてくれたので、まけてしまったけどがんばれました。もう一回運動会をやりたいと思いました。」

4年・梶田さん「オープンきょうぎオトナたい子ども。わたしは、まけるかもしれないからドキドキした。『勝っちゃうかなあ、オトナたい子どもってしんばいだなあ』そして、けっかはっぴょうのとき、オトナと子どもでてんがすごくさがあったから、わたしはすごくおどろいた。オトナってこんなにつよいんだ。私の予想では、オトナは、弱いかと思ってオトナをなめていた。つぎからは、オトナをなめないようにしようと思った。」



5年・杉山さん「朝からとてもドキドキしていて、『とてもあつという間だったなあ。』と思いました。私が運動会でがんばったことは三つあります。一つ目は、係会です。私はしん判で特に低学年に『がんばったね』『速かったよ』などの声をかけて相手が笑顔になったのでうれしかったです。二つ目は、表現です。一番心配だったのは、最後の部分です。いつも忘れてしまってギリギリになってしまうからです。だけど本番前に、頭に入れておいたおかげでタイミングよく踊れたのでとてもうれしかったです。他の部分もいままでで一番いいダンスができたのでおどり終わった時、心の中で『やったー!!』とさげびました。」

6年・岡子田さん「私が心に残った競技は、三つあります。一つ目は、ムカデ競争です。お母さんに『もっと短く持つといいよ』と言われたので、ももくらいまでで持ったら速く進めるようになりました。予行演習と同じ結果だったけど、全力で取り組めたのでよかったと思います。二つ目は、表現です。なぜなら、今までで一番、力強くカッコいい演技ができたからです。風が強くて寒くても、最初からほとんど動かないで、音楽を待つことができたし、大きな声で『イーヤーサーサ』とかけ声をかけることができました。三つ目は、オープン競技です。なぜなら、大人に負けてくやしかったからです。・・来年は中学生。みんなをまとめたり、面倒をみることができる、そんな存在になりたいです。」

中1・荒木さん「中学生になって初めての運動会。中学生としてみんなを引っ張っていくことができたとと思う。運動会は、勝つためには競技を頑張ることも大切だが、応援することも大切だと私は思う。『どうせ応援したって意味がない』と思ったこともあったが、応援してみると、その人の気持ちをらくにできるということを知り、応援の大切さを改めて感じた。だから、下の学年にも呼びかけることができ、負けてしまったけど、いろいろ教えてあげることができた。」

中2・橋本くん「一番印象に残ったのは二つある。一つ目は団結だ。白組のスローガンでもあったが、失敗してしまった人に対する声かけやはげましている姿をたくさん見かけたし、自分自身にもはげましにきてくれる人がいて団結力が強くなっていったのを感じた。二つ目は努力だ。なぜなら、中学部中心に小学部に呼びかけに行き、それに応えて小学部全員集まって練習をし、本番では成功したのでこれは全員の努力の成果だと思った。これらのことを、運動会だけでなく、これからの行事に生かされたいと思う。」

中2・赤組応援団長・芹澤くん「応援団長をやらせて頂き、自分の積極的な姿勢を磨けたと思う。これまでにない運動会を創るために行動できた。赤組が最後準優勝を言われたとき、実を言えば自分の失敗などを頭の中で流し、こうすればよかったなどと、2,3分思っていた。しかし、気持ちでは負けていないという団長だったので、立ち直れた。その後の集まりでどうやったらみんなが負けたという気分にならないかを考え、最後みんなで円になって場を盛り上げた。あの場面でみんなが少し明るいふんいきになったと信じてたい。」

中2・白組応援団長・白戸くん「ぼくは、応援団長をやらせてもらいました。応援団のこともみんなと協力していろいろな事を決めることができました。しかし、練習の時などイメージできていない事があり、グダグダになってしまった時がありました。そんな時も仲間や先生からアドバイスなどをもらいながら、運動会をつくっていくことができました。みんなが全力でやってくれていい運動会にすることができました。」

中3・児童生徒会長・西中さん「今年は例年に比べ、準備期間が短く、表現などは特に大変だった。去年は団長で人をまとめる難しさを知り、コツを覚えたので今年はそれを生かした。私はあまり運動が得意ではない。だから、サポート役に回ることが多い。今年は3年生が二人しかいないし、特に自分がやらなければまとまらないことに気づくと、力が湧いてきた。自分でもこれが最後の運動会だから、全力をつくしがんばりたいと思っていたのかもしれない。」

